

注意点1

理論

トライアド+7度音のコード・トーンを学ぼう

まずは、1 & 3 小節目で使われているコード・トーンを分析しよう。こちらは、基本的にルート音、3度音、5度音、7度音の4声音で構築されている(図1-a)。通常のトライアドに7度音を加わったと思えば覚えやすい。実際に弾く時には、トライアドを3本弦スウィープし、3本弦目にさらに7度音を加えるという感覚を持てば良いだろう。ちなみに7度音にはメジャー(長7度)とマイナー(短7度)の2種類があり(図1-b)、さらにこのフレーズでは6度音も足されている。文字数の関係で、ここではくわしくは解説しないが、このことを理解しておくのとフレーズ作りに役立つので、興味がある人は音楽理論書など読んで研究してもらいたい。

図1-a 1小節目のコード・トーン

◎ ルート音 ● 7度音

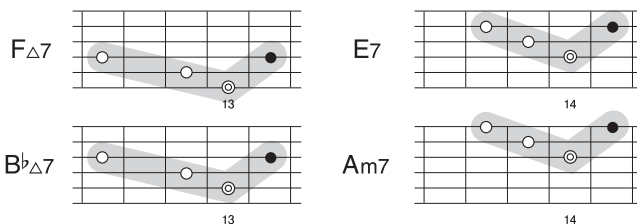
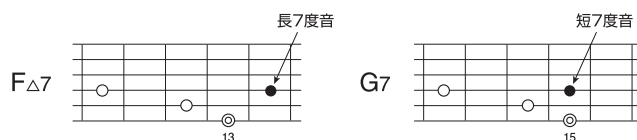


図1-b メジャー7thとマイナー7th



注意点2

左手 右手

タッピング+スライドは右手を離弦させずに滑らそう

1 & 3 小節目に登場するスウィープ・フレーズは、まず3本弦をダウンでスウィープし、次に3本弦目の2音目(7度音)をアップで弾き、最後にブリッキングで3音を鳴らしている。このフレーズは、すべてこのパターンになっているので、慣れてしまえば速く弾くことができるはずだ。2小節目のチョーキング・プレイは、模範演奏CDをよく聴いてニュアンスをつかんでほしい。4小節目では、スウィープ+タッピング・フレーズが登場するが、タッピング後の右手によるスライドに注意しよう(写真①~④)。ここでは、1拍目最後の1弦19フレットをタッピング後、そのままの状態20フレットにスライドし、またスライドで19フレットに戻る。この行って帰ってくる動作を1セットとし、「タララ」とトリルのような感じで鳴らそう。



1 弦 17f をハンマリング。



1 弦 19f をタッピング。あせらず確実に押弦しよう。



1 弦 20f にスライド。指が離れないように注意。



1 弦 19f にスライド。ここでも指が離れないように!

~コラム47~

地獄の戯れ言

ここでは、筆者が特にオススメしたい泣きのギターが聴ける3曲を紹介しよう。1曲目はゲイリー・ムーアの「スティル・ゴット・ザ・ブルーズ」。ブルージな泣きのソロを存分に堪能できる1曲だ。2曲目はガンズの「ノーヴェンバー・レイン」。胸に響いてくるようなスラッシュのエモーションなソロが収められている。3曲目はハード・ロック史上に残る名ギター・ソロが収録されたレッド・ツェッペリンの「天国への階段」。見事に構築された壮大な泣きのソロとなっている。やはり、素晴らしい泣きのギターが収録された曲は、楽曲自体も名曲であると言えるだろう。

プロに学べ! 泣きのギター名演紹介



ゲイリー・ムーア
「スティル・ゴット・ザ・ブルーズ」
from「スティル・ゴット・ザ・ブルーズ」



ガンズ・アンド・ローゼス
「ノーヴェンバー・レイン」
from「ユーズ・ユア・イリュージョン1」



レッド・ツェッペリン
「天国への階段」
from「4」